

県外派遣報告書

審判員名	箱石 拓也	所属	U18
大会名	第78回 国民スポーツ大会関東ブロック大会		
期間	2024/8/24(金)～8/25		
会場	山梨県北麓総合体育館・鐘山総合体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月20日	審判会議	オンライン会議(勤務先)	
8月23日	移動日	宿泊先	
8月24日	大会初日	北麓総合体育館	
8月25日	大会二日目	北麓総合体育館	
会議 講義 内容			
<p>審判会議(レクチャーのみ記載)</p> <p>プレゼンについて 東京都 佐藤浩太様 ・プロのゲームを任せられるかどうか→立ち居振る舞い、走り方、所作、動作、テーブルレポート、止まり方、背筋のばす等 ・苦しい時こそ、毅然とした態度でオンザコートで立ち続ける→自分にとって不都合な時の姿勢や表情に意識を向けてほしい。(自信なさげな顔つきや姿勢にならない) ・この試合を安心して任せられる姿を意識的に作っていく。→こういった姿勢を作っていくことで、この試合に何かあった際には必ずコントロールするぞ！というものに変えていく。</p> <p>東京都 千葉美幸様 ・第1印象は3秒から5秒で決まる。 →メラビアン法則 55%(見た目、表情、ボディランゲージ)、38%(聴覚情報)、7%(言語情報)。この法則から考えられることは？ やはり見せ方になる。=プレゼン。これが大事。 ・プレゼンテーションは正しくマニュアル通りにすることで、相手にしっかり伝わる。ベーシックに拘っていく。 →TOや観客にも分かりやすく大きく、はっきりと。 ・プレゼンテーションの重要なポイントは？ →しっかりと手を挙げてから、大きく、正しく、メリハリをつけることで、デリバリーに繋げていく。プレゼンはすぐに変えられる。</p> <p>群馬県 内野翔太様 1 ルール通りのコール→まずはルール通りを実践する事で、ゲームを安心・安全に進めていく。 2 ゲームコントロール→ゲームが間違った方向に進まないようにコントロールしていく。ラフにさせない。 3 選手、ベンチが欲しいコール→インテンシティーコントロール(これだけではないと思うが。。。) 4 観客が欲しいコール →ゲームの商品価値を高めていく。(このゲームに関わっている人たちの熱量や思いを汲み取れるようにしていく。) 5 試合が面白くなるコール →このゲームに関わっている全ての人たちの時間とお金を無駄にさせないレフェリングを心がけていく。 ・受け入れ方は人それぞれ。自分たちのキャラクターを客観視して、必要なコーリングとプレゼンをしていく。分かりづらいファールはプレゼンを分かりやすくする。当たり前のコールはシンプルにしていく。 ・周りからどう見られるか？ →自分に合ったスタイルで、色々やってみる。コピーは得意。モノマネで終わらないで、自分らしさを！</p> <p>栃木県 渡邊整様 1 今持っている力を出し切って欲しい。→中途半端は勿体無い。 2 ルールの理解から判定力を磨いてほしい。 →気付き、分析、判断、発信する力などを全ての人に分かりやすく伝える。判定については根拠を持って欲しい。そうすることで、今のライセンスに必要とされていることが、経験することによって自然と身についていく。 3 たくさんのゲームを生で見ましょう！映像では見られないものをしっかり見ていきましょう！</p>			

実技			
担当試合	期 日	2024/8/24(土)	少年男子
	対戦カード	千葉 VS 茨城	CC佐田 U1箱石 U2大木
	相手審判		
ミーティング内容		主任 若林謙作	
<p>・優勝候補同士の対戦カード。どちらもアウトサイドを中心に得点を積み重ねていくスタイルのチームだったので、ショットの前のスクリーン、1ON1に対するディフェンスとオフェンスのやりとり、AOSとリバウンドを中心にゲームコントロールをしていこうと考えていた。結果的には、どちらが勝ってもおかしくないゲーム内容であった。最後までクルーで集中して取り組めたことが良かった。</p> <p>講評</p> <p>・笛の吹き方とプレゼンについて。吹いた後の移動についてご指摘いただいた。→結果的には勿体無い。グッドコール、グッドプレゼンも台無しになってしまう。気をつけたい。</p> <p>・プライマリーについて。→いくつかのケースで一緒にコールしたものが、プライマリーテイクされていないものがある。確認してほしい。</p> <p>・メカニクスについて。→慌てて見に行ってるように見えるので、最終目的地をもっとハッキリさせてアジャストさせる。</p>			
担当試合	期 日	2024/8/25(日)	成年男子
	対戦カード	千葉 VS 神奈川	CC若林謙 U1濱 U2箱石
	相手審判		
ミーティング内容		主任 佐藤浩太	
<p>・成年決勝戦。試合目ともあって、かなり疲れもみえる試合内容だった。インサイドの神奈川とディフェンスとアウトサイドの千葉との戦い。序盤は千葉がアウトサイドを中心に攻撃を組み立てながら、得意の早い展開でリードする。神奈川も粘り強いディフェンスと高さのあるリバウンドで食らいつきながら、前半を終えた。後半は徐々に神奈川の高さが機能し始めて、逆転し、そのままリードを保って勝利した。2試合目だったこともあり、できる限り両チームの特徴を発揮させてタフになるようにゲームを進めていくことを打ち合わせし、プラン通りに実行できた。途中にラフになりかけたところでは、必ず笛が入っていたのでゲームの方向性がズレることなく終わらせることができた。</p> <p>講評</p> <p>ゲームに水を差してしまうような余計な笛がなくて良かった。ゲームもラフにならずに両チーム集中してくれていた。その中で、コントロールが必要とされる場面での笛をご自身のプライマリーで鳴らせるともっと良かった。また、ブロックorチャージについてダブルコールがあった際に、ブロッキングジェスチャーを2人とも出していたので、気をつけてほしい。</p>			
全体の感想			
<p>まずはじめに、山梨県バスケットボール協会の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さいました埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。</p> <p>担当した2試合から次へのステップへの課題について</p> <p>①プレゼン→判定したものをどう伝えていくか？</p> <p>②立居振る舞い→プレゼンと類似するところはあるが、例えば、トップリーグを吹くためには、やはり見栄えは大切になってくる。目立つ必要はないが、よりきちんとした姿勢や動作を身につけていきたい。</p> <p>③笛の吹き方→まだ笛が早いと認識している。良い判定に繋げるためにスタート、デベロップ、フィニッシュ、ディンジョンの流れを大切にしていきたい。</p> <p>④慌てないこと→今回担当した2ゲーム共に自身のプライマリーに対して笛が入ってくるケースがいくつかあった。笛が入ってくることに限っては、大きな問題なくやれている。しかし、その後の自身の判定やメカニクスなどに影響してくるケースがいくつかあった。慌てず、落ち着いて、レフェリングに集中できるようにしていきたい。</p> <p>オンザコートでは、臆することなく普段通りにできたと思う。派遣されるたびに感じることは、一人ひとりの審判員には必ず価値感や考え方があり、これらを一つにまとめて、選手やコーチ、そして観戦している人たちに還元することが大切であり、大変難しい作業だと痛感した。また、試合をコントロールすることの重要性を学べた。非常に大きな収穫だった。</p> <p>最後に、埼玉県の審判員の皆様におかれましては、今回の国民スポーツ大会で経験させていただいたことを共有したいと思っております。そして、皆さんで切磋琢磨し、県内だけの活動に満足するのではなく、県外や各ブロック大会の派遣を勝ち取るために共に努力し、強く逞しいチーム埼玉にしていきたいと強く思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。</p>			
<p>※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。</p>			